

月影

平成十八年七月一日（第十三号）

浄土宗西山禅林寺派

常林院

迎え火は

おいでませとの
おもてなし



盆行事のお知らせ

墓回向 はかえこう

八月五日・六日・七日

朝七時から午前中

本堂と墓前にて回向致します。

棚経 たなぎょう

日時は葉書でお知らせ致します。

施餓鬼会 せがきえ

八月十六日（水）午後六時半より。

常林院本堂にて

お盆

お盆とは、正しくは「盂蘭盆会」といい、祖先の霊を迎えて祀る重要な仏教行事です。

十三日を「迎え盆」といい、この日の夜に迎え火を焚いて精霊を迎え、精霊棚に祀りはじめます。また、十六日を「送り盆」といい、この夜に送り火をもって精霊をお送りします。

精霊棚

しようれいようだな

お盆になると、ご先祖様はお浄土から各自の家庭に帰って来られます。その死者の靈魂を精霊と呼びます。

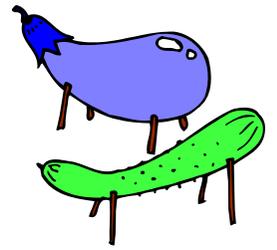
そして、帰って来られたお精霊さまへのご馳走が、精霊棚です。また、盆踊りもお精霊様を慰めるために行われ、ご先祖様と一緒に踊る気持ちで踊るわけです。

精霊棚には、色々な供物を供えます。そのとき、

キュウリとナスに芋殻おがらの脚をつけて馬と牛に見立てます。この馬と牛をご先祖様のタクシーにしたいただこうというわけです。お盆の前にはこの牛馬を家の中へ、お盆の終わる十六日には家の外へ向けておきます。

あるいは、キュウリは馬で、ナスは牛で、わが家に帰って来られる十三日には、馬に乗って一刻も早

く帰って来てください。
そして、お浄土へ帰って行かれる十六日には、牛に乗ってゆっくりとお帰りください。というふうに、牛馬を使い分けられるともいいます。



お施餓鬼とお盆

お施餓鬼は本来、期日を定めず随時行う法会です。現在ではお盆の前後に行われることが多いようです。（春秋彼岸や五月に行うところもあります）

これは、子孫のない無縁の霊は餓鬼となってさまよっているといわれたことから、ご先祖様の霊を迎えて供養するお盆の時期に無縁の霊を供養する為に行うようになったものと思われます。

ただ、お施餓鬼とお盆はよく似た法会で、お施餓

鬼はお釈迦様の弟子、阿難尊者が餓鬼のために供養した話に由来します。一方お盆の由来は、同じくお

釈迦様の弟子、目連尊者が餓鬼道に堕ちた母を救うために供養した話です。どちらも、餓鬼道に堕ちた霊を供養する話を由来としています。

仏様の慈悲は、すべてのものを等しく救う広大なものです。今では餓鬼ばかりではなく、先祖代々の霊、また弔う人のない無縁の霊など広く供養する法

会になっています。

施餓鬼棚

お施餓鬼では他の法要と違い、本堂の外縁に施餓鬼棚を設け、阿弥陀様を背にして施餓鬼棚に向かつて法要をします。お施餓鬼は七如来（または五如来）を本尊として営まれるので施餓鬼棚に向かうわけです。

施餓鬼棚の上には七如来の幡を掛け、棚上中央には三界万霊（過去・現在・未来のあらゆる霊）の位牌や、浄水・供物・花などを供えます。そして、各家の水塔婆を供え読経し、お施主様にお焼香をしてもらい精霊をお供養します。

.....

あとがき

○早いものでもう七月。一年の折り返し地点を過ぎました。そして来月はお盆です。お盆は年に一度、ご先祖様がお帰りになる月です。家族そろって静かにお供養ができればいいですね。

○十六日のお施餓鬼の参詣者が減ってきているように思います。夕方出にくい時間帯ではあります。どうぞお焼香をしてお供養していただきたいと思います。よろしくお願ひ致します。